

# タヌキの生態と対策ついて

## 【生態・行動】

- 形態** (体長)約40~60cm (尾長)12~18cm (体重)3~10kg程度  
 ずんぐりした体型で足がそれほど長くはない。夏期には想像よりも痩せて見える。体色は茶褐色から灰褐色。目の周辺と足全体、尾の先端が黒っぽい。
- 食べ物** 雑食性で果実や種子、昆虫やミミズなどの小動物、それ以外では生ゴミ等も食べる。
- すみか** 山林から里部まで様々な場所に生息する。  
 自分では穴を掘らず、アナグマの古巣や樹洞などを巣として利用する。
- 行動** 夜行性で、人家周辺まで餌を探しにくる。日中に行動する場合もある。  
 単独または家族単位の群れで行動する。なわばりは持たず、複数の群の行動範囲が重なる。複数の個体が一定の場所に糞をする「ため糞」という習性がある。一頭のタヌキが数か所のため糞場所を持っている。  
 1m近くジャンプするほか、木や柵などを登ることができる。(木登りも不得意ではない)
- 繁殖** 年1回、5~7月に4~6頭の仔を出産する。1年以内に性成熟に達する。



ヤブに潜むタヌキ



群れで移動するタヌキ



タヌキのため糞場所



穴を開けられたビニールハウス

## 【被害の形態】

### 農業被害

#### 【果樹の被害状況】

- ・ビワ、ミカン、ブドウ、ナシ、リンゴ等のほとんどの果樹で被害が発生する。
- ・イノシシなどに比べて一回の採食量が少なく、枝折りなどもあまりしない。
- ・果実をくわえて果樹園から外に持ち出して食べることも多く、被害を把握しにくい。
- ・テンやアナグマ、アライグマ等の他の中型哺乳類と被害の形態が似るため、区別をつけるのが困難。  
(ただし、同様の対策で被害防止が可能)

#### 【野菜類の被害】

- ・スイカやイチゴ、サツマイモやダイコン、ニンジン、カボチャやトウモロコシ等の多くの野菜に被害が発生する。(糖分の多い野菜を好む傾向がある)
- ・果実と同様に、耕作地から持ち出される場合もあるが、耕作地内で食べることが多い。
- ・イチゴはツルについた状態で、半分程度がかじられることが多い。
- ・トウモロコシは皮の一部を剥いて食べる。口で皮を剥くため、犬歯による穴が皮に残る。  
注) タヌキやテンは口を使って餌を取るのに対して、アライグマやサルは手をよく使うため、トウモロコシの皮や果実袋のはがし方で区別できる。

#### 【水稲の被害状況】

- ・踏付けによる被害が発生することがあるが、直接の食害は多くはない。

#### 【その他の被害状況】

- ・畜産飼料が食べられるなど被害が発生する。



ヤブの中で見つかったカキ



カキを啜るテン  
(タヌキも同様の習性を持つ)



トウモロコシの食害跡



タヌキ等による水稲の踏付け

## 生活被害

家屋の床下などに定住し、し尿による衛生被害のほか、疥癬症などの人畜共通感染症を媒介する。噛付き等の人身被害、ジステンパー等のペットへの感染の危険性もあることから、餌付けや素手での接触は行うべきではない。

## 【被害防止の方法】

### 誘引物を除去する

- ・クズ果樹、クズ野菜、生ゴミなどを農地やその周辺に放置するとタヌキの餌付けや引寄せになることから、これらの放置を止める。
- ・採り残した果実や野菜は、早期に除去する。  
タヌキによる農地から持ち出された果樹等の食べ残しが、イノシシ等の他の動物を二次的に引寄せする可能性があるため、誘引物の除去を徹底することが重要。
- ・コンポスト等は蓋に重石をするなど、中身を漁られないように対策を行う。

### 農地への侵入を防ぐ

- ・タヌキの大きさや木登りの能力、跳躍力などを十分に念頭に置き、侵入防止効果の高い柵を設置する。その際には、傾斜や強風などの地域条件、設置に要するコストや労力、設置後の見回りや補修等の維持管理に要するコスト、労力も考慮する必要がある。
- ・木登り能力があるため、電気柵の設置が必要。  
ただし、タヌキは7.5cm程度の間隙を通過できるため、電線は地上から10cm程度とする必要があり、草の接触などによる漏電対策が非常に困難である。通電性の防草シート等を利用する。
- ・タヌキは1m程度の跳躍力を持つ。またトタン板の波部分に足をかける場合もあり、傾斜地や強風等の条件や費用対効果等からトタン柵での被害防止は長崎県において不向きだと考えられる。
- ・タヌキだけではなく、イノシシなども出没する地域では、ワイヤーメッシュ柵と電気柵を組合せた複合柵を設置すると効果的。ワイヤーメッシュは線径が4mm程度、格子の大きさが5cm程度の物を使用し、上部には5cm間隔で電線を2~3本、配線する。このような柵は、イノシシやタヌキの他アナグマやテン、アライグマ等の侵入も防ぐことができる。  
(電気柵との複合柵を作る時に、格子の大きい(7.5cm以上)ワイヤーメッシュを利用する場合は、ワイヤーメッシュの内側にタヌキの爪がかからないような細かい網目のネットやトタンを組合せる方法がある。)
- ・ネット柵と電気柵を組合せた柵(白落くんなど)も有効。ただし、イノシシの生息場所ではネット柵部分への潜り抜けや噛み切りにより侵入される可能性が高い。
- ・果樹園の場合、柵を支えているワイヤーや木製の支柱などを伝わって侵入する場合がある。



農作物残さ(野菜クズなど)を集めて処分する



ワイヤーメッシュと電気柵の複合柵

## 個体数を減らす

- ・ 何度も果樹園や耕作地に侵入し、被害が継続して発生するようであれば、捕獲による個体数調整も必要となる。
- ・ タヌキの捕獲は、狩猟および有害捕獲によって行う。狩猟には狩猟免許（狩猟者登録）、有害捕獲には狩猟免許のほか、有害捕獲許可が必要。
- ・ タヌキの捕獲には通常、箱ワナを使用する。
- ・ 箱ワナの餌にはリンゴ等の果実を用いる。ソーセージやペットフード等は、ペット類を含む他の動物の錯誤捕獲の可能性が高くなるため、なるべく使用を避ける。  
（果実の場合、アナグマの錯誤捕獲の可能性もある）
- ・ 引寄せになる野菜クズや放任果樹が周辺にある状態では、捕獲は大変困難となる。また、タヌキは人里周辺で普通に生息している在来種であり、誘引物の除去対策を進めながら捕獲を行うと効果的。

## 緩衝帯を設置する

- ・ イノシシやサルなどに比べて、タヌキに対する緩衝帯の効果は明らかではない。ただし、侵入防止柵の周辺の草を刈ることで柵の見回りや維持管理が容易になるため、イノシシ等の侵入防止対策にもつながる。



箱ワナによる捕獲

（ブドウ棚に登られないようにトタン巻きをしている。コンポストの容器には蓋に重石が置いてある。）